



The service club to the YMCA
THE Y'S MEN'S CLUB OF
TAKARAZUKA

宝塚ワイズメンズクラブ
 〒 662-0977 西宮市神楽町
 5-23
 西宮 YMCA 内
 Tel (0798)35-5987



“ TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIS EVERY RIGHT

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL OF Y'S MEN'S CLUBS CHARTERED MAY 22,1988
宝塚ワイズメンズクラブ 2024年8月会報 第428号

主 題 ・ 標 語

国際会長(I P) A Shanavaskhan (A・シャナヴァスカーン) (インド)

主 題 “Together for a better World” 「より良い世界の為に、共に」

スローガン “Arise and Shine” 「立ち上がろ、そして輝こう」

アジア太平洋地域会長(AP) Joan Wong(ジヨウン・ウオン)(香港)

主 題 “Make a Great Impact “ 「大きなインパクトを起こそう」

スローガン “Be Bold and Serve by Faith “ 「大胆に、信念をもって奉仕しよう」

西日本区理事(RD) 鷗丹谷 剛 (神戸)

主 題 つなげよう地域と世界、YMCA と共に

スローガン 楽しもうフェロウシップをポジティブに

六甲部長 小野勅紘 (西宮)

主 題 一人は万人のために、万人は一人の為に

スローガン Y (YMCA) ・ Y (ユース) ・ W (ウイン) ・ W (ウイン) の関係で互いに支援しましょう！

宝塚クラブ会長 長尾 亘

主 題 楽しい例会があって、YMCA・地域活動を大切に！

西日本区8月強調テーマ：戦略2032

親睦と地域社会への影響力における卓越性
 100年後を見ずえて、YMIが掲げる「戦略2032」を理解しスタートダッシュの10年を有意義なものにしましょう。
 西日本区書記 今西宏樹

2024年8月例会(ハイブリッド)

日 時：2024年8月14日(水)18時30分

場 所：宝塚市西公民館ホール

会 費：1,500円

ドライバー 郡家 学・小林康男

開会点鐘 長尾 亘 会長

ワイズソング 全 員

聖書朗読・祈祷 武田 寿子

転入会員・ゲスト・ビジター紹介 長尾 亘 会長

会 食

卓 話 「タイ国際大会に参加して」

岡野泰和ワイズ

委員会報告

YMCA報告

誕生日のお祝い 長尾 亘 会長

ニコニコファンド

閉会点鐘 長尾 亘 会長

2024~2025 役員	会 長 長尾 亘 副会長 多胡葉子 福田宏子 書 記 若林成幸 会 計 小林康男 郡家 学 会計監査 石田由美子 風早寿郎 担当主事 橋本 唯 ネット連絡 小林貴美子 直前会長 石田由美子
8月 誕生祝い	2 多胡葉子 28 若林弘子
7月 実 績	会員在籍数(A) 15 名 例会出席総数(B) 22 名 (内Zoom3名) (内訳) 会員(C) 11 名 メネット・アソシエト 4 名 ゲスト・ビジター 5 名 メイクアップ(D) 2 名 鯖尻・武田 会員出席率 C+D/A 87 % 例会充足率 B/A 147 % ファンド・ファンド実勢 ニコニコ 4,000円 (累計 4,000円) ファンド タカラムネ 7,600円 (累計 7,600円) 真菰茶 2,000円 (累計 2000円) ファンド合計 9,600円 (累計 9,600円)

聖句

「体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、
体は一つであるように、キリストの場合も同様である。」

新約聖書・I コリント12:12

随想

コリントの教会は分裂寸前でした。教会の中に党派が生まれたのです。他人を配慮しない人たちがのさばって、貧しい人々が教会を追い出されつつあったのでした。

足は手を邪魔物だといって仲間外れにすることができるのか。目は耳に対して「私より劣っているから、向こうへ行け」と言えるのか。「私は足でなくてよかった」という言葉がどれだけ人を傷つけることか。

教会は趣味同好会ではありません。いろいろな人が集まります。皆、生活環境が違います。当然、摩擦が起きます。しかし、楽しいのです。どう楽しいか？「仕えあう」という奥深い醍醐味を味わえるから、楽しいのです。

四国で牧会していた時、教会に体の不自由な方がおられました。教会員が車で彼を迎えに行きます。車を教会に横付けすると、礼拝堂に彼の身体を教会の床にまで上げるために礼拝出席者は総出で汗だくになります。しかし、汗だくになっても、嬉しいのです。汗だくになって、やっと礼拝堂の座席に座った時の彼のホッとした笑顔を見るのが、皆、大好きでした。教会員は彼の存在によって励まされていました。

私たちは、「人様に迷惑をかけてはいけない」と言われ過ぎて育ってきました。しかし、この言葉が仇となり、かえって協力しあう、仕えあうことが下手になってしまったのではないのでしょうか。一人で何でもできる社会は素晴らしいです。しかし、「ありがとう」の言葉を喪失した社会になってしまったのではないかと危惧します。

「迷惑をかける」という表現の持つマイナスイメージをプラスイメージに変えたいのです。「お前に迷惑をかけたわ。私を礼拝に連れて行ってくれ」。この会話が当たり前前の関係を作り出していきたいのです。

平和を造り出していくためのわざは私たちの足元にいくらでも転がっています。

浦上結慈

六甲部第一回評議会報告

新年度の冒頭、7月6日(土)14時から六甲部第一回評議会が神戸 YMCA チャペルで開催された。小野部長による開会点鐘・ワイズソング斉唱・祈祷のセレモニーが行われ、評議会の成立要件である定足数確認の報告があった。前年3月評議会で定足数にはリアル参加のほか Zoom 参加と委任状も算入されることになっていたが、リアル参加のみで定足数に達しキャビネットの懸念も杞憂に終わった。むしろ鶴丹谷理事輩出の六甲部を支えたいとする暗黙の願いが現れたように思われた。早速、議案の審議にはいった。井出浩直前部長が他用のため到着が遅れたことから前期会計報告・監査報告から始まった。概ねの報告が終わったところで会計担当から監査後に判明した2件(YMCAサーバー利用料未払い・西日本区のYYフィーラム助成金未処理)の補足説明があり、これに対し出席者から報告書の是正を求める意見がでたが結局賛成多数で承認された。

次いで小野部長から部長方針・活動計画が説明され承認を得た後、予算案審議に移った。直前会計で2件の未処理案件があったにも拘わらず次期会計担当は何の修正説明もなく予算原案を提案、そのまま可決された。その後、各主査・委員長・各クラブ会長の方針・計画が発表された。

宝塚クラブの石田由美子ワイズは広報委員長として「ワイズ活動のみえる化」をアピールし、長尾亘会長は「楽しい例会があって、YMCA・地域の奉仕活動を大切に」と抱負を述べた。

今回は特段の審議案件もなく予定時刻より早目に第一回評議会を終了した。

若林成幸

7 月第 1 例会報告

2024～2025 年度西日本区理事：鵜丹谷 剛氏（神戸）の主題「つなげよう地域と世界、YMCA と共に」、宝塚クラブ会長：長尾 亘氏「楽しい例会があって、YMCA, 地域の奉仕活動を大切に！」を掲げ、7 月 10 日（水）宝塚市西公民館に於いて 2024 年度キックオフ例会が行われた。参加者はメンバー 11 人（うち一人 ZOOM 参加）、メネット 2 人、アソシエイト 2 人（ZOOM 参加）、ゲスト 5 人の 20 人。ゲストには小野勅紘六甲部部长、濱 浩一書記、岡野泰和 大阪土佐堀クラブワイズ、布谷美幸・日菜乃親子の 5 人。

直前会長の石田由美子ワイズの最後の開会点鐘がずっこけることなく鳴らされて始まった。

ドライバーは若林ワイズ。全員でワイズソングの斉唱をして、青柳ワイズによる聖書朗読、祈禱と続き、ゲストビジターの紹介後、六甲部部长立ち会いのもと役員交代式を行い長尾 亘新会長が率いる役員に引き継がれた。

会食を済ませて総会へと移り、長尾亘新会長、各事業委員の活動方針、それに伴う会計予算案が発表され、出席会員全員の承認を得て新年度のスタートが切られた。その後橋本唯担当主事から YMCA 報告があり、7 月のお誕生日のお祝い、各事業委員からのお知らせと続いて、長尾亘新会長の閉会点鐘で散会となった。

各事業委員会の活動方針は、①YMCA サービス・ユース：「YMCA の歩みをサポートする」 ②地域奉仕、環境事業：「地域とつながりヲ大切にしながら楽しい諸活動の輪を広げる」 ③EMC：「共にワイズライフを楽しもう」 ④国際交流事業：「宝塚クラブらしく楽しいをモットーに！」 来年 2025 年度、第 28 回西日本区大会アピールに、力を注ぎ、英文ニュースレターの発行、宝塚クラブをアピールする ⑤ブリテン（広報）：「クラブ活動の見えるよう、広報、交流の活性化に寄与 ⑥メネット：「メンの行動をサポート、協力、協働を目指す」・・・との力強い決意が感じ取られた。



年々、高齢化が進み、若手会員を獲得するのは、世の中の人々の価値概念も以前とは異なり至難の業であるのは否定できない。幸い宝塚クラブには「アソシエイト会員制」があり、その魅力を大いに PR をし、気楽に例会に参加でき楽しんでくださるよう努力を惜しまないようにしたい。また、例会に参加するのが難しい方々へのご家庭で簡単に参加できるハイブリッドのサービスを続けているが運営上の問題点もあるので改善を急がねばならないと痛感した次第であった！！



例会に特別ゲストとして参加された中学生 布谷日菜乃さんからお礼の言葉が述べられた。

去る 6 月 15 日から 7 月 16 日までの 30 日間にわたりクラウドファンディングを立ち上げました。小学 4 年生の従姉妹が突然に脳幹グリオーマという小児がんにかかり、余命 8 ヶ月と宣告されたからです。この従姉妹をなんとか支援したいという強い思いがあって風早ワイズに相談、そして宝塚ワイズにも声かけをしていただいて、側面から日菜乃ちゃんに寄り添いましょうと関わりを続けていただけることになりました。

このことを日菜乃ちゃんご家族はとても感謝されて、ワイズの皆様に一言お礼が言いたいと例会時に親子で参加されました。日菜乃ちゃんが心を込めて作られたスワッグとお菓子を我々にお礼とご持参され、現状の報告とお礼のお言葉がありました。

多胡葉子・福田宏子

7 月第 2 例会報告

日 時：2024 年 7 月 17 日（水）18：30～20：15

場 所：西公民館 103 号室

出席者：長尾会長、石田、青柳、多胡、武田、福田、小林、郡家、若林

議事要旨

1. 例会について

- ① 六甲部納涼合同例会（8/3 日（土）14：30～神戸ミュンヘン大使館）は自由参加。（7 月議事録を訂正）クラブの 8 月例会を 8 月 14 日（水）に通常通り開催する。

卓話：「タイ国際大会報告」by 岡野泰和ワイズ（8 月例会にて大阪土佐堀クラブから宝塚へ転入）この際、Zoom 環境（聞き取り難い等の問題点あり）の見直しと改善を行う。

- ② 納涼例会参加者は 7/25 までに石田（交流委員長）へ連絡すること。

- ③ 9 月卓話 林 優子氏（特定非営利活動法人ぽっかぽかランナーズ代表）

10 月卓話 中野祥子氏（関学大フラチーム「マハロ」初代メンバー・(株) Matka 代表取締役）。

11 月卓話 西村隆夫氏（タイ在留・Zoom 参加）。

12 月 14 日（土）クリスマス合同例会（大阪土佐堀クラブと・香櫨園のイタリアンにて）。

1 月卓話 稲村俊昭氏（京都美術工芸大学 建築学科特任教授）（打診中）

2 月 オープン例会第 2 回目を計画、講師候補として服部 正氏（甲南大教授（美術史・芸術学、障がいのある人の創作活動を研究領域））が紹介された。

2. 部会の日程（詳細は西日本区 HP「部会案内」をご覧ください）

8/31（土）西中国部 半月庵～錦川清流鶉飼船 ・9/7（土）京都部 ウェステイング都ホテル京都

9/8（日）びわこ部 ホテルニューオウミ ・9/14（土）阪和部 シテイプラザ大阪

9/28（土）中部 ホテルルブラ王山

10/5（土）九州部 ホテルメルパルク熊本 ・10/26（土）中西部 ホテルクライトン新大阪

11/2（土）六甲部 ホテルヒューイット甲子園・11/9（土）瀬戸山陰部 TKP ガーデンシテイ

可能な範囲で部会に参加し、来年 6 月開催の西日本区大会（神戸）の PR にご協力下さい。

3. ブリテン・広報

○若林委員の編集案をもとに記事分担を決定、締切り 7/25、校正 7/28、発行 8/1

○聖書・随想（金田・浦上牧師）は、10 月以降金田牧師に代わり新堀牧師（甲東教会）に協力要請。

○会員・アソシエイトの活動を紹介するため PR 欄を設ける。（新企画）

○広報を積極的に進め、六甲部 HP 活用、例会ちらし作成、西日本区への実施報告を確実にを行う。

4. 会計からお願い

前期会費 20,000 円は 8 月中に納めて下さい。

納付先：三菱 UFJ 銀行 宝塚中山支店

普通 4585836 宝塚ワイズメンズクラブ

以 上



第 28 回西日本区大会実行委員会報告

7 月 22 日(月)、18:30から神戸 YMCA で開催。今回は最も重要な案件である会場の有効的な使い方が中心になりました。

ホテルのボールルーム(大会、及び懇親会会場)にどの位のサイズのステージ設置が可能か、それによってバナーセレモニーや役員交代式など多人数のプログラムの進め方が大きく変わって来ます。

当初プログラム委員会が計画していた幾つかのアイデアに再検討が必要になりました。

宝塚クラブはプログラム委員会をサポートしていますので若林委員長を中心に知恵を絞りましょう。

8 月 31 日から始まる各部部会でのアピール用に、神戸ポートクラブの大野勉ワイズがプロモーションビデオを試作しました。神戸市コンベンションビューローが無料で使用させてくれます。容量が大きいため YouTube で再生です。

<https://www.youtube.com/watch?v=i5OPgeDnQvc>

実行委員会 石田 由美子

留学生と浴衣

浴衣を着るのは大好きだけど、その機会が無いままなんと 20 年ほど前の浴衣を引き出しから出してきた。

YMCA の夏季留学生に浴衣を着せるお手伝いを引き受けてしまった。ただ、お役に立ちたいとの気持ちだけで、自分のスキルについては全く自信が無かった。着付け教室に通っていた娘に帯の結び方を事前に 2 回も習って当日を迎えた。

7 月 12 日宝塚クラブから 3 名が YMCA に出向いた。学生さん達が来る前に自分達も浴衣姿になって待つことにした。

ふと見ると、教室に既に用意してある素敵な模様の浴衣は一つ一つ必要な紐などセットになっていて、色合わせの良い帯も結ばれた形になっていて、簡単に着付けられるようになっていた。やがて、やって来た 12 名の留学生にカレッジの職員の皆様と一緒に次々と着せてあげる事が出来た。

浴衣を着たなかなかの男前と美人が出来上がり満足感が込み上げてきた。玄関前で写真を撮った後、ハーバーランドへ行くという彼らと引率の職員を見送った。

その日は梅雨の時期ながら、雨も無く、酷暑も無く本当に浴衣日和でした。

実に楽しい充実した経験だった。

青柳美知子



岡山クラブ例会に ZOOM で参加

7 月 16 日、午後 7 時から開催された岡山ワイズメンズクラブの例会に ZOOM で参加させていただいた。スピーカーが岡山落書き調査隊 隊長の岡崎久弥氏、演題は街の落書き調査活動から見えてくるもの～今、市民として生き始めるとは？と題して語られた。

岡山市内の繁華街は 20 年前まで岡山は日本一の落書きシティーという汚名がつけられていたが、当時 YMCA はじめ市民団体の方々と共に一丸となって落書き消去に取り組み、その活動は日本全国に伝わり、高い評価を得て一時は落書きが街から消えていたように思われていた。が、最近 YMCA の子供達が防犯マップづくりのために街の調査をしたところ再び多くの落書きが点在していることが判明。そのことを踏まえて 11 月には再び YMCA、ワイズ共に落書き消去活動をするようになった。そして前もって落書きは街にどのような影響を与えるかということを中心にスピーカーの岡山落書き調査隊、岡崎調査隊長に話を聞くことになり落書きについての知識を前もって知る機会となった。

落書きはどの街にも横行している。落書きが殺人、放課、強盗などにつながる実態が世界各地で証明されているとのこと。日本での落書き犯は大学生が多く、大半は誰が犯人かということにはわかっているとのこと。一方的に犯人を捕らえて罰するのではなく、背後にある事情などを理解して取り組むことも大切なことと話された。また、岡山 YMCA の子供達が取り組んでいる落書き消去活動はとても素晴らしいもので、子どもたちの取り組みこそが自分たちの街を明るく住みやすい街づくりにつながっていくということも実感できているとのこと。そして子供達と共に取り組んでいる岡山 YMCA のこの活動こそが子供から気づきが与えられ、日本全国に広がっていくことが落書きなき社会につながり住みやすい街になっていくと話された。

オンライン発信での参加はワイズ関係や、リーダーたちが 15 人ほど参加されていた。

ZOOM 参加は何のトラブルもなく良い状況で参加できその技術は専門の方が操作されている故でしょうか。オンライン例会を売り物にしている宝塚ワイズも見習いたいと思ったことです。

多胡葉子

紀ノ川クラブ創立 40 周年記念祝会

熱中症警戒予報が続く 7 月 28 日(日)、和歌山紀ノ川クラブ 40 周年記念祝会に、宝塚クラブより多胡葉子メンと福田宏子、2 名が参加した。久々の和歌山！！移り行く車窓の景色を眺めながら、しばしの旅行気分を味わった！「和歌山」に到着するや否や灼熱の太陽が、迎えてくれた。東は熱海、西は岡山より、総勢 157 名が、記念集会に集った。元 Y'S men だった和歌山県知事 岸本周平氏を初め数名の来賓の祝辞に続き、2025 年大阪夢洲で開催される「日本国際博覧会」の記念公演があり、1970 年(昭和 45 年)千里丘陵で開催された万国博覧会、当時、アメリカ館の「月の石」を観るために、当時の日本の人口の半分が訪れ、人気を博したのを思い出した。



季節の和食に舌鼓を打ちつつ、同テーブルの方々との話に花が咲いた。紀ノ川クラブが力を入れ、応援しておられる若いリーダー達による「食品ロス宣言」活動は、現在の全世界に共通する最も必要でかつ重大な問題であり、その報告には頭が下がった。残念ながら、現在、YMCA 活動に若者が遠く現状を抱える我々には、羨ましい反面、もう一度、じっくりと再考すべきではなからうか？との思いが遮った。

まさに、紀ノ川クラブはスローガン「紀ノ川の流れを次世代へ」つなげる 広げる ふかめる！」を実践されており、教わる事が多い。素晴らしい 40 周年の記念祝会であった。

福田宏子

Y M C A 報 告



神戸YMCAカレッジでは、7月に夏限定のにはんごクラス(2週間)を開講していました。このクラスは初めて日本語を学ぶ方が多く、日本語の勉強だけではなく、授業後に観光や日本人との交流プログラムを実施しています。そのプログラムの一環で、7/12(金)に浴衣の着付け体験を行いました。宝塚ワイズから、着付けボランティアとして、多胡さん、青柳さん、石原さんにご協力いただきました。参加者のみなさんは、初めての体験をとっても喜んでおられました。また、浴衣を着ているお三方のお姿に感動し、「着付けの先生と一緒に写真撮りたい！」と人気だったようです。参加者の皆さんは、浴衣を着てから神戸散策を楽しみました。いつもYMCAの諸活動にお力を貸してくださり、感謝いたします。ありがとうございます。



余島野外活動センターおよびキャンプ場運営 に関するお知らせ

2024年7月1日

(公財) 神戸 YMCA 理事長 中道基夫
総主事 井上真二

平素は本会の活動にご支援、ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、余島は神戸 YMCA の使命と願いを象徴する場として、70年余の長きに渡り、豊かな自然の中で人が会し、互いに交わり、豊かな場としてその存在意義を神戸 YMCA 内外に表してきました。その価値は計り知れないものであり、他の何ものにも代えがたい大切なものです。

しかしながら、来る2060年3月31日の賃貸借契約の満了を持ちまして、運営から撤退することになりました。

2020年の新型コロナウイルスの世界的パンデミックを受け、余島での事業が制約を受ける中におきましても、その活動の大いなる意義を踏まえて継続を図り、契約延長をしつつ、土地所有者とは購入あるいは新たな賃貸借契約の締結に向けての交渉を続けて来ました。また、並行して本会内においても、青少年育成の場としての余島の歴史的な経緯や価値を再確認しつつ、継続に向けての課題の整理、対応について協議を重ねてきましたが、長年の財政課題と施設の老朽化の問題等を含め、万やむを得ず上記の決断に至った次第です。

今後、運営終了まで可能な限り今まで通りの運営を行うとともに、新たな野外活動の展開について協議を行い、青少年教育の大切な場としての野外活動事業が途切れることなく続けられるよう全力を尽くす所存であります。

皆様の長年にわたるご厚情に心から感謝申し上げますと共に、今後とも神戸 YMCA の諸活動にご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。